

ロドルフォは扉を閉め、明かりを脇に置いて、机の一角を片付け、インクつぼと紙を置き、それから椅子に座って、まだ灯っていたもうひとつの明かりを消してから、書きものを始める。そして中断し、考え、また書き、苛立ち、文章と格闘し、ペンを放り出してしまう。

ロドルフォ

(やる気を失って)
だめだ乗ってこない。
(おずおずと扉がノックされるので)
どなた？

ミミ

(外で)
失礼ですが。

ロドルフォ

(立ち上がって)
女性だ！

ミミ

すみませんが、明かりが消えてしまったんです。

ロドルフォ

(扉を開けに駆けつける)
はい。

ミミ

(出入り口で、消えた明かりと鍵を持って)
お願いできませんか……？

ロドルフォ

少しの間お入り下さい。

ミミ

いいえそれには及びません。

ロドルフォ

(しつこく)
どうぞ、なかへ。

ミミ、入るが、すぐに呼吸が苦しくなる。

ロドルフォ

(気を遣って)
具合が悪いのですか。

ミミ

いえ……何でもありません。

ロドルフォ

顔色がよくありませんよ。

ミミ

(咳き込んで)
息が……あの階段で……

ミミは倒れこむ。ロドルフォは即座にミミを支え、長椅子に横たえる。その間にミミの手からろうそく立てと鍵が落ちる。

ロドルフォ

(まごついて)
さてどうしたものか……
(水を取りに行き、しずくをミミの顔にふりかける)
こうだな。
(とても興味を抱いてミミを眺めながら)
病人のような顔だ。
(ミミ、気がつく)
よくなりましたか。

ミミ

(かぼそい声で)
ええ。

ロドルフォ

ここはとても寒い。火の近くへお座り下さい。
(ミミは断るそぶりをする)
お待ちを……ワインを少し……

ミミ

ありがとう……

ロドルフォ

(杯を渡して注ぐ)
あなたに。

ミミ

少し、少しでいいです。

ロドルフォ

このくらい？

ミミ

ありがとう。
(飲む)

ロドルフォ

(見とれて)
(なんてかわいい子だろう！)

ミミ

(起き上がって、ろうそく立てを探す)
ところで
火をいただけませんか。ご厄介になりすぎました。

ロドルフォ

そんなに急ぐんですか。

ミミ

はい。

ロドルフォは床に落ちているろうそく立てに気づき、それを拾って火をつけ、黙ってミミに手渡

す。

ミミ

ありがとう。おやすみなさい。
(出入り口へ向かう)

ロドルフォ

(出入り口まで付き添う)
おやすみなさい。
(すぐに創作に戻る)

ミミ

(出て行き、それから開いたままの出入り口にふたたび現れる)
ああ、運の悪いこと！
部屋の鍵をどこに置き忘れたかしら。

ロドルフォ

戸口に立ち止まらないで。明かりが風で揺らぎますよ。

(ミミの明かりが消える。)

ミミ

あら何てこと！ また火をいただけませんか。

ロドルフォ

(ミミのろうそくに火をつけ直そうとしてろうそくを持って急ぐが、扉に近づいたところでロドルフォの明かりも消えてしまって、部屋は暗くなる)
おおしまった。ぼくのも消えた！

ミミ

(手探りで進み、机に出くわしたのでろうそく立てをそこに置く)

鍵はどこにあるのかしら。

ロドルフォ

(扉に気づいて閉める)
真っ暗だな！

ミミ

ついてないわ！

ロドルフォ

どこだろう？

ミミ

ご迷惑をおかけしてしまって……

ロドルフォ

(ミミの声の聞こえるほうに向かう)
とんでもありません。

ミミ

(また注意深く進みながら、上品に繰り返す)
ご迷惑をおかけして……
(膝立ちで、両足を床でこすりつつ鍵を探す)

ロドルフォ

何をおっしゃいます、とんでもない。

ミミ

探してございませんか。

ロドルフォ

探しましょう。

(机に突き当たり、ろうそく立てをそこに置いて、手探ししながら床のうえで鍵を探しはじめる。)

ミミ

どこにあるのかしら。

ロドルフォ

(鍵を見つけ、思わず叫び声をあげるが、すぐに思いなおして鍵をポケットにしまう)
あっ！

ミミ

見つかりましたか？

ロドルフォ

いえ！

ミミ

そんな気がしましたけど……

ロドルフォ

ほんとうです……

ミミ

(手探しする)

探して下さってますか？

ロドルフォ

探してますよ！

(探しているふりをして、けれどもミミの声と足音に導かれ、彼女に近づこうとする。ミミは床にかがみこんで、ずっと手探ししている。このときロドルフォが近づいてかがんだので、ロドルフォの手がミミの手と出会う)

ミミ

(驚いて)

あっ。

ロドルフォ

(ミミの手を握ったまま、感動しきった声で)

なんて冷たい(小さな)手だ！

このまま暖めさせて下さい。

(鍵を探し続けて何になります？ 暗闇では見つかりませんよ。でも幸い、今夜は月夜です。

そして僕達は、こんなにも月の間近に居るのです。

お嬢さん、逃げないで。

貴女に一言で言いましょう。

僕が何者か、何をしているか、どんな生活をしているか、よろしいですか？

(ミミは黙っている: ロドルフォは、後ずさりしながら見つけた椅子に緊張のあまり座り込んだミミの手を離す。)

僕は何者か? 詩人です。
何をしているか? 書き綴ります。
どんな生活か? 生きています。
貧しさの中での僕の幸せは
紳士の贅沢である
愛の詩や賛歌。
夢や空想、
幻想によって
心意気は億万長者です。
そんな日々の中、僕の(心という)金庫から
美しい瞳という2人の盗人が
全ての財宝を盗み取ったのです。
今も奴らが貴女と一緒にそこに入り込み、
僕の見た夢や
美しい(現在の)夢は
あっという間に消し去られてしまいました。
でもこの盗難には気落ちしていません。
代わりに甘い希望を
残していったのですから!
これで貴女は僕のことをご存じです。
さあ、貴女の番です。どんな方なのですか?
話して頂けませんか?

MIM Ì

(少しためらうが、話すことにする。座ったまま。)

はい。
みんなは私をミミと呼びます、
でも私の名前はルチーアです。
私の話は
簡単です。家や店で
布や絹地に 刺繍をするのです・・・。
私は穏やかで、幸せです
そして私の気晴らしといえば
ユリやバラを作ること。
私は好きなのです
ステキな魅力を持つものや、
愛や春について語るもの、
そして、夢や幻想について語るもの、
詩という名を持つものが・・・。
お分かりになります?

RODOLFO

(感動して)

ええ。

MIM Ì

みんなは私をミミと呼びます、
なぜかは知りませんが、
ひとりで、
お昼ごはんを作って食べます。
ミサには毎回は行きません
でも、神様にはたくさんお祈りをします。
ひとりで生活しているんです、たったひとりで
あの小さな白いお部屋で
屋根や空を見ているのです。
でも、雪解けの季節がやって来る時、

最初の太陽は私のものなのです、
四月の最初のくちづけは私のものなのです！
鉢植えのバラが芽吹いて・・・
葉の一枚一枚を覗くのです。
なんて優しいのでしょうか
花の香りは！
でも、私の造る花は、ああ！香りが無いのです。
私のことで他にお話しすることはありませんわ。
私はこんな時間に邪魔しにやって来る
あなたのご近所さんですわ。

SCHAUNARD
(中庭から)
おい！ロドルフォ！

COLLINE
ロドルフォ！

MARCELLO
おい、聞こえないのか？
(仲間達の怒鳴り声にロドルフォはイライラする)
のろま！

COLLINE
へボ詩人！

SCHAUNARD
くたばれ、
なまけもの！

(ロドルフォ、よりイライラ、手探りで窓辺に近づき、窓を開け、少し体を乗り出しながら中庭にいる仲間達に答える。
開いた窓から月の光が差し込み、部屋を少し明るくする。)

RODOLFO
(窓から)
急いで書いてるから。

MIMÌ
(窓に少し近づきながら)
だれ？

RODOLFO
(ミミに)
仲間さ。

SCHAUNARD
おまえは聞くだらうよ、その・・・

MARCELLO
そこで独りで何してんだよ！

RODOLFO
独りじゃないんだ、二人なんだ。
モミュスへ行って、席を取っといてくれ、
すぐに僕たちも行くから。

(仲間がいなくなるのを確認するように窓際に残る)

MARCELLO, SCHAUNARD e COLLINE

(遠ざかりながら)

モミュス、モミュス、モミュス、
黙って、おとなしくいなくなろうじゃないか。
モミュス、モミュス、モミュス、詩人が
詩を見つけたのさ！

(ミミはもっと窓辺に寄り、月の光が彼女を照らすように。ロドルフォ、振り向きながら光のきらめきに包まれたミミに気づく、そして彼女を熱く見つめる、ほとんど恍惚状態で。)

RODOLFO

おお、麗しい乙女よ、おお、輝きはじめて月の光に
優しく包まれた優しい面影、
貴女の中に
僕がいつも夢見ていたかった夢がある！
(ミミを腕で抱きすくめながら)
心の中ではもう
最高の甘美が震えおののき、
口づけの中に愛が震えているのです。

(ミミにキスする)

MIM Ì

(とても感動しながら)
ああ！愛よ、おまえだけがそうさせるのね！
(ほとんど身を任せて)
(おお！なんと甘く
愛の喜びが心にしみるのでしょうか・・・。
愛よ、おまえだけがそうさせるのね！)

MIM Ì

(身を解き放しながら)
ダメ、お願いですわ！

RODOLFO

君は僕のものだ！

MIM Ì

お友達が待っていらっしゃるのでしょうか・・・。

RODOLFO

もう、僕を追い払うのかい？

MIM Ì

(ためらって)
そうじゃなくて・・・、でも、どうしようかしら・・・。

RODOLFO

(優しく)言っごらん。

MIM Ì

(愛らしくズルッぽく)
もし、あなた方とご一緒できたら？

RODOLFO
(おどろいて)
なんだって？・・・ミミ？
(取り入るように)
ここにいたほうがどんなにステキかもよ。
外は寒いよ。

MIM Ì
(かなり身を任せて)
あなたのおそばにいるわ！

RODOLFO
で、帰ってきたら？

MIM Ì
(いじわるっぽく)
知りたがり屋さんね！

RODOLFO
(愛情込めてミミにショールをかけるのを手伝う)
腕を貸してごらん、僕のかわいい人。

MIM Ì
(ロドルフォに腕をあずけて)
仰せのとおり、ご主人様！
(腕を組んで扉の方へ向かう)

RODOLFO
愛していると言って・・・。

MIM Ì
(ゆだねたように)
あなたを愛しているわ！

RODOLFO
愛よ！

MIM Ì
愛よ！
Rodolfo chiude l'uscio, depone il lume, sgombra un angolo del tavolo, vi colloca calamaio e carta, poi siede e si mette a scrivere dopo aver spento l'altro lume rimasto acceso: si interrompe, pensa, ritorna a scrivere, s'inquieta, distrugge lo scritto e getta via la penna.

RODOLFO
sfiduciato
Non sono in vena.
Si bussa timidamente all'uscio.
Chi Ł l à ?

MIM Ì
di fuori
Scusi.

RODOLFO

alzandosi
Una donna!

MIM ì
Di grazia, mi si È spento il lume.

RODOLFO
Corre ad aprire.
Ecco.

MIM ì
sull'uscio, con un lume spento in mano ed una chiave
Vorrebbe... ?

RODOLFO
S'accomodi un momento.

MIM ì
Non occorre.

RODOLFO
insistendo
La prego, entri.

Mim ì , entra, ma subito È presa da soffocazione.

RODOLFO
premuroso
Si sente male?

MIM ì
No... nulla.

RODOLFO
Impallidisce !

MIM ì
presa da tosse
Il respir... Quelle scale...

Sviene, e Rodolfo È appena a tempo di sorreggerla ed adagiarla su di una sedia, mentre dalle mani di Mim ì cadono candelieri e chiave.

RODOLFO
imbarazzato
Ed ora come faccio?...
Va a prendere dell'acqua e ne spruzza il viso di Mim ì .
Cos ì !
guardandola con grande interesse
Che viso da malata!
Mim ì rinviene.
Si sente meglio?

MIM ì
con un filo di voce
S ì .

RODOLFO

Qui c'è tanto freddo. Segga vicino al fuoco.

Mimì fa cenno di no

Aspetti.. un po' di vino...

MIMÌ

Grazie...

RODOLFO

Le dà il bicchiere e le versa da bere

A lei.

MIMÌ

Poco, poco.

RODOLFO

Così ?

MIMÌ

Grazie.

Beve

RODOLFO

ammirandola

(Che bella bambina!)

MIMÌ

Levandosi, cerca il suo candeliere

Ora permetta

che accenda il lume. " tutto passato.

RODOLFO

Tanta fretta?

MIMÌ

Sì .

Rodolfo scorge a terra il candeliere, lo raccoglie, accende e lo consegna a Mimì senza far parola.

MIMÌ

Grazie. Buona sera.

S'avvia per uscire

RODOLFO

L'accompagna fino all'uscio

Buona sera.

Ritorna subito al lavoro

MIMÌ

Esce, poi riappare sull'uscio che rimane aperto

Oh ! sventata !

La chiave della stanza dove l'ho lasciata?

RODOLFO

Non stia sull'uscio; il lume vacilla al vento.

Il lume di Mimì si spegne

MIM ì

Oh Dio! Torni ad accenderlo.

RODOLFO

Accorre colla sua candela per riaccendere quella di Mim ì , ma avvicinandosi alla porta anche il suo lume si spegne e la camera rimane buia

Oh Dio!... Anche il mio s'è spento!

MIM ì

Avanzandosi a tentoni, incontra il tavolo e vi depone il suo candeliere

E la chiave ove sar à ?...

RODOLFO

Si trova presso la porta e la chiude

Buio pesto!

MIM ì

Disgraziata!

RODOLFO

Ove sar à ?

MIM ì

Importuna è la vicina...

RODOLFO

Si volge dalla parte ove ode la voce di Mim ì

Ma le pare?...

MIM ì

Ripete con grazia, avanzandosi ancora cautamente

Importuna è la vicina...

Cerca la chiave sul pavimento, strisciando i piedi

RODOLFO

Cosa dice, ma le pare!

MIM ì

Cerchi.

RODOLFO

Cerco.

Urta nel tavolo, vi depone il suo candeliere e si mette a cercare la chiave brancicando le mani sul pavimento

MIM ì

Ove sar à ?...

RODOLFO

Trova la chiave e lascia sfuggire una esclamazione, poi subito pentito mette la chiave in tasca

Ah !

MIM ì

L'ha trovata?...

RODOLFO

No !

MIM ì
Mi parve...

RODOLFO
In verit à ...

MIM ì
Cerca a tastoni
Cerca?

RODOLFO
Cerco!

Finge di cercare, ma guidato dalla voce e dai passi di Mim ì , tenta di avvicinarsi ad essa che, china a terra, cerca sempre tastoni: in questo momento Rodolfo si È avvicinato ed abbassandosi esso pure, la sua mano incontra quella di Mim ì

MIM ì
sorpresa
Ah!

RODOLFO
tenendo la mano di Mim ì , con voce piena di emozione!
Che gelida manina!
Se la lasci riscaldar.
Cercar che giova? Al buio non si trova.
Ma per fortuna È una notte di luna,
e qui la luna l'abbiamo vicina.
Aspetti, signorina,
le dir ò con due parole
chi son, che faccio e come vivo. Vuole?

Mim ì tace: Rodolfo lascia la mano di Mim ì , la quale indietreggiando trova una sedia sulla quale si lascia quasi cadere affranta dall'emozione.

Chi son? Sono un poeta.
Che cosa faccio? Scrivo.
E come vivo? Vivo.
In povert à mia lieta
scialo da gran signore
rime ed inni d'amore.
Per sogni, per chimere
e per castelli in aria
l'anima ho milionaria.
Talor dal mio forziere
ruban tutti i gioielli
due ladri: gli occhi belli.
V'entrar con voi pur ora
ed i miei sogni usati
e i bei sogni miei
tosto son dileguati.
Ma il furto non m'accora,
poichØ vi ha preso stanza
la dolce speranza!
Or che mi conoscete,

parlate voi. Chi siete?
Vi piaccia dir?

MIM ì

“ un po’ titubante, poi si decide a parlare; sempre seduta
S ì .

Mi chiamano Mim ì ,
ma il mio nome Ł Lucia.

La storia mia

Ł breve. A tela o a seta
ricamo in casa e fuori...

Son tranquilla e lieta

ed Ł mio svago

far gigli e rose.

Mi piaccion quelle cose

che han s ì dolce mal ì a,

che parlano d’amor, di primavera,

di sogni e di chimere,

quelle cose che han nome poesia...

Lei m’intende?

RODOLFO

commosso

S ì .

MIM ì

Mi chiamano Mim ì ,

il perchØ non so.

Sola, mi fo

il pranzo da me stessa.

Non vado sempre a messa,

ma prego assai il Signore.

Vivo sola, soletta

l à in una bianca cameretta:

guardo sui tetti e in cielo;

ma quando vien lo sgelo

il primo sole Ł mio

il primo bacio dell’aprile Ł mio!

Germoglia in un vaso una rosa...

Foglia a foglia la spio!

Così gentile

il profumo d’un fiore!

Ma i fior ch’io faccio, ahimŁ! non hanno odore.

Altro di me non le saprei narrare.

Sono la sua vicina

che la vien fuori d’ora a importunare.

SCHAUNARD

dal cortile

Ehi! Rodolfo!

COLLINE

Rodolfo!

MARCELLO

Ol à . Non senti?

Alle grida degli amici, Rodolfo s’impazienta

Lumaca !

COLLINE
Poetucolo !

SCHAUNARD
Accidenti
al pigro!

Sempre piø impaziente, Rodolfo a tentoni si avvia alla finestra e l'apre spingendosi un poco fuori per rispondere agli amici che sono giø nel cortile: dalla finestra aperta entrano i raggi lunari, rischiarando cos
ì la camera

RODOLFO
alla finestra
Scrivo ancor tre righe a volo.

MIM ì
avvicinandosi un poco alla finestra
Chi sono?

RODOLFO
a Mim ì
Amici.

SCHAUNARD
Sentirai le tue.

MARCELLO
Che te ne fai l ì solo?

RODOLFO
Non sono solo. Siamo in due.
Andate da Momus, tenete il posto,
ci saremo tosto.

Rimane alla finestra, onde assicurarsi che gli amici se ne vanno

MARCELLO, SCHAUNARD e COLLINE
allontanandosi
Momus, Momus, Momus,
zitti e discreti andiamocerle via.
Momus, Momus, Momus, il poeta
trov ò la poesia.

Mim ì si Ł avvicinata ancor piø alla finestra per modo che i raggi lunari la illuminano: Rodolfo, volgendosi, scorge Mim ì avvolta come da un nimbo di luce, e la contempla, quasi estatico

RODOLFO
O soave fanciulla, o dolce viso
di mite circonfuso alba lunar
in te, vivo ravviso
il sogno ch'io vorrei sempre sognar!
cingendo con le braccia Mim ì
Fremon gi à nell'anima
le dolcezze estreme,
nel bacio freme amor!

La bacia

MIM ì

assai commossa

Ah! tu sol comandi, amor!...

quasi abbandonandosi

(Oh! come dolci scendono

le sue lusinghe al core...

tu sol comandi, amore!...)

MIM ì

svincolandosi

No, per piet à !

RODOLFO

Sei mia!

MIM ì

V'aspettan gli amici...

RODOLFO

Gi à mi mandi via?

MIM ì

titubante

Vorrei dir... ma non oso...

RODOLFO

con gentilezza

MIM ì

con graziosa furberia

Se venissi con voi?

RODOLFO

sorpreso

Che?... Mim ì ?

insinuante

Sarebbe cos ì dolce restar qui.

C'È freddo fuori.

MIM ì

con grande abbandono

Vi star ò vicina!...

RODOLFO

E al ritorno?

MIM ì

maliziosa

Curioso!

RODOLFO

Aiuta amorosamente Mim ì a mettersi lo scialle

Dammi il braccio, mia piccina.

MIM Ì
D à il braccio a Rodolfo
Obbedisco, signor!
S'avviano sottobraccio alla porta d'uscita

RODOLFO
Che m'ami di' ...

MIM Ì
con abbandono
Io t'amo!

RODOLFO
Amore !

MIM Ì
Amor!

[Puccini,Giacomo/La BohÈme/Act -1](#)